

## 放射線科専攻医カリキュラム

### 1. 目標

放射線科専門医として求められる画像診断・IVR、核医学、放射線治療に関する知識の大部分を習得し、患者さんや他診療科主治医の要望に応じた医療を提供できるようにする。

このためには、以下の行動目標を設定します。

- (1) 国内外を問わず最新の知識と技術の習得に常に努める。
- (2) 画像診断・IVR、核医学、放射線治療の目的、適応、限界を説明することができる。

### 2. 研修スケジュール

年度	内容
1年度	画像診断・IVR、核医学、放射線治療の基本的な研修。 画像診断レポートを作成(上級医によるチェック・フィードバックあり)。 IVRの助手。 上級医の指導のもとで、定型的な放射線治療の患者への説明、治療計画、経過観察。
2年度	学会・研究会での症例発表。 画像診断レポートを作成(上級医によるチェック・フィードバックあり)。 IVRの助手、簡単なIVRは術者として実施。 定型的な放射線治療の患者への説明、治療計画、経過観察。
3年度	臨床研究の発表。論文発表。 画像診断レポートを作成(上級医によるチェック・フィードバックあり)。 IVRの実施(助手および術者として)。 放射線治療の患者への説明、治療計画、経過観察。 日本医学放射線学会認定の総合修練施設での研修も選択肢となる。
終了後の予定	放射線科専門医資格取得。 名大放射線科に入局し、放射線科専門医資格取得を目指す場合には、名大病院放射線科あるいは関連施設で研修。大学院への進学も可能。

### 3. 研修体制

#### 1) 教育病院の指定の有無

日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関(総合修練機関は名古屋大学医学部附属病院)

#### 2) 研修カリキュラム

日本医学放射線学会「放射線科専門医研修カリキュラム 2012年版」に準拠

#### 3) 取得可能な認定医および取得可能な時期

・日本医学放射線学会認定放射線科専門医

初期研修終了後3年以上の臨床研修が必要です(受験は卒後6年目)。3年間の専攻医研修は日本医学放射線学会認定研修施設(当院は認定施設)で行う必要があり、そのうち1年間は総合修練機関での研修が必須です。当院は総合修練機関ではないので、名大放射線科に入局し、放射線科専門医資格

取得を目指す場合には、専攻医 2 年目あるいは 3 年目に名大病院放射線科での研修も選択肢に挙げられます。

#### 4) スタッフ体制

部長1名、副部長 1 名、常勤医 1 名、研修医 0-1 名

#### 5) 症例検討会、抄読会等のスケジュール

(1) 消化器症例検討会:	毎週水曜日	7:45-8:30
(2) 救急症例検討会:	毎週月曜日	8:00-8:30
(3) 呼吸器腫瘍カンファレンス:	毎週火曜日	17:30-18:30
(4) 耳鼻科腫瘍カンファレンス:	毎月第1・3木曜日	17:00-17:30
(5) 婦人科腫瘍カンファレンス:	毎月第1月曜日	18:00-19:00
(6) 口腔外科腫瘍カンファレンス:	毎月第3月曜日	17:00-17:30

#### 6) 主な参加学会

年一回の学会出張費を支給します。筆頭発表の場合は回数の制限はありません。

- (1) 日本医学放射線学会 (2) 日本 IVR 学会 (3) 日本放射線腫瘍学会
- (4) 日本核医学会

#### 7) 定期的に参加する研究会等

- (1) 名古屋レントゲンカンファレンス 年4回
- (2) 東海 IVR 懇話会 年4回
- (3) 東海放射線腫瘍研究会 年1回
- (4) 東海総合画像医学研究会 年2回

#### 8) 主な経験目標

以下基本的に、日本医学放射線学会「放射線科専門医研修カリキュラム 2012 年版」に準拠します。

##### A. 診察法・検査・手技

###### 1. 診察法

表在動脈の触診、表在リンパ節触診、婦人科内診、咽喉頭内視鏡

###### 2. 検査法

X 線検査、X 線造影検査、CT、MRI、超音波検査

###### 3. 基本的手技

経静脈性造影剤投与

血管(動脈)造影

###### 4. 基本的治療法

塞栓術、薬物動注療法

甲状腺内用療法

ストロンチウム治療

放射線治療

##### B. 経験すべき症状・病態・疾患

###### 1. 症状

###### 2. 病態

###### 3. 疾患

画像診断および放射線治療の適応となりうる代表的な疾患(全身の多岐に渡る)  
その他、医の倫理と医療の質、医学物理学、放射線生物学、放射線防護・安全管理に関しても  
学ぶ必要がある。

C. 研究会・学会発表・論文発表

1. 研究会・学会発表 以下の研究会等のいずれかに年1回以上の発表を行う。  
日本医学放射線学会中部地方会、日本 IVR 学会中部地方会、日本核医学会中部地方会  
東海総合画像医学研究会、名古屋レントゲンカンファレンス
2. 学会発表 以下の学会のいずれかに1回以上の発表を行う。  
日本医学放射線学会総会、日本医学放射線学会秋季臨床大会、日本 IVR 学会総会、  
日本核医学会学術総会、日本放射線腫瘍学会学術大会

9) その他

- (1) 購入洋雑誌(画像診断、放射線治療関連のみ)  
①Radiology ②International Journal Radiation Oncology Biology Physics ③Pediatric Radiology
- (2) 全員に端末(ノート)とインターネット環境を完備